

風光明媚(めいび)な猪苗代湖を歩いて一周できることは、あまり知られていない。そもそも自分の足で歩こうと思う人は、決して多くないだろう。確かに一度に長い距離を歩くのは大変だ。けれど千里の道も一歩から。そこで、少しの距離ずつに分けて湖周を旅することを勧めたい。

四月下旬のこと、参加者は湖面に映る桜を見ながら猪苗代湖の福良浜を出発した。これから目的地の志田浜まで反時計まわりに進んでいく。スタートから十五分ほど歩き、青松浜を通じて鬼沼に向かう曲がり角に差し掛かった。「みなさん、後ろを振り返ってみてください」とわたしが言うと、「うわーっ」という歓声が上がった。西の方にまだ雪深い飯豊連峰が浮かび上がる。それがまるで猪苗代湖の湖上にあるかのように見えるのだ。こんな素晴らしい眺めは、そうは楽しめない。その日は旅行会社が企画した湖周を

民報 サロン

三回に分けて巡る旅の一回目。一回あたり二十キロを六時間かけて歩く行程になるが、先ほどの素晴らしい眺めで幸先の良い出発になった。参加者一人一人がそれぞれの思いを持ちながらこの旅を続ける。旅への期待感が高まる一方で、それぞれ口には出さないが「歩けるかな」「迷惑をかけないかな」

湖周十五里の旅



大竹 力

「ちょっと南方面を見ながら聞いてきた。うとうと向こう側ですよ」。わたしは猪苗代湖の対岸を指さした。「すごいわよね。頑張ったわよね」と、参加者は互いに声を掛け合っている。この日の道のりでほしい五里半である。最終日に合計で十五里(六十キロ)を完歩するその時の感動は、想像に難くない。

ど、心中にはさまざまな不安も抱えて歩みを進めている様子だ。青空の下、舟津浜で弁当を食べて栄養を蓄える。休憩で気合が入ったあとは後半の道のりだ。警梯山を左前方に見ながら、ようやく午後三時に志田浜へ到着。喜ぶ参加者たちは「わたしたちはどこから出発してきたの?」と湖

いざ湖畔を歩こうとすると、いろいろなことに気づく。歩くのはいいけど帰りのバス路線はあるの? 観光地図はあるの? など。でも、旅は道連れ世は情け。ないなら自分でかまわない。さあ、調べることから旅は始まる。さわやかに健やかに、自分の地図に書き込みながら歩いてみよう。例えば猪苗代湖では古くから湖上交通が行われていたという。会津藩は江戸へ米を運ぶ際、戸ノ口から秋山浜までは舟で運んでいたらしい。そのために秋山浜の近くには金毘羅(こんびら)さんがあるのだろうか? のんびり湖畔を歩きながら、いにしへの湖上舟運に思いをはせるのも楽しい。急ぐ旅ではないから、何年かかってもいいはずだ。